



第2回協議会だより 《西方部》

—令和5年10月12日（木）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 希望ヶ丘保育所

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



希望ヶ丘保育所では、日常生活において子どもたち一人一人が学びの対象に自ら興味・関心をもち実行錯誤しながら主体的に学びへと向かうことができるように、発達段階を考慮した、幼児期にふさわしい遊びや生活を子どもたちに提供し支援を進めています。

今回事例として挙げられた、「身支度の整理」や「熱中症予防」においては、その状況の中で自分で考えたり工夫したりしながら行動することを大切に、「食育」においては、自分で育てた野菜を食べることを通して自分の食とのつながりや生命の尊さに自ら気づくことを大切にするなど、様々な場面において、子どもの「自分で」「自ら」を大切に関わっています。また、特色ある保育として力を入れている鼓笛では、友だちと一緒に挑戦することを大切に、自己肯定感の高揚をねらい一人一人の努力を認め称賛することを大切にしています。

気になる子への支援においても、一人一人の姿を捉え記録し、その子に合った支援や指導を進めるなど、子どもたち一人一人と向き合い主体性を大切に支援を進めることで、一人一人のよりよい成長につながっているものと感じられました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 希望ヶ丘保育所の発表について

- ・子どもたちが主体的に活動できるように先生方が細やかに支援をしているので、子どもたちの「やりたい」を引き出している。「やりたい」が成功体験に変わって小学校に行ってから自信になる。
- ・様々な活動をすることで「教え合い」「助け合い」を育て、子どもに自立心が育っている。

☆ テーマ「遊びを通して育まれる資質・能力について」～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～について

- ・1つの活動でいくつもの資質・能力が育まれる。幼保小の目指すところは大きな変化がないのにギャップを感じる。幼保は「遊び」で、小学校は「勉強」で学ぶことに由来するかも。小学校のスタイルに合わせて「小学校ごっこ」を取り入れているところもある。
- ・幼児期に育まれた力を小中学校でさらに高めていくことが大切になってくる。先生方がそれぞれの立場で情報を共有し、それに向き合うことが大切である。

《参加者からのアンケートから》

- ・中学生の姿しか見ていなかったため、幼保小の先生方のお話が聞けてよかったです。申し送りや引継ぎは子どもたちにとって大切なことと実感しました。様子をしっかりと観察し、その子に即した支援・指導をしていきたいと思いました。(中学校・参加者)
- ・小学校に入学してからの様子を聞くことができ、保育園にいるうちに育てておきたい課題がみえてきました。(保育園・参加者)

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。